



市場の世代交代が進みつつある？

好調な海外旅行者数のリバウンドの背景には旅行者層の世代交代が垣間見えるようです。米本土方面への市場を例に深読みします。

米本土方面への旅行者数に持ち直しの兆し

2016年の海外旅行者数は久々に好調なりバウンドとなりました。旅行会社の取扱動向は巨額に置いて、今回はこの旅行者数のリバウンドの背景について探ってみようと思います。

2016年の海外旅行者数は久々に好調なりバウンドとなりました。旅行会社の取扱動向は巨額に置いて、今回はこの旅行者数のリバウンドの背景について探ってみようと思います。2016年のリバウンドは近隣アジア諸国への旅行者数の回復が大きく貢献していますが、ロングホールの中にも興味深い推移を示している方面があります。今回、注目する米本土がそれです。米本土への旅行者数が2001年の9.11以降、如何なる推移を辿ってきたか、またその背景は何か、改めて述べるまでもないでしょう。これは読者の多くが身を以て体験されてきたことだと思ふからです。しかし、図表1にも示した通り、米本土への旅行者数は、この数年、やや持ち直しの兆しを示しており、2016年も比較的堅調に推移しているようです。

東海岸でリードする観光性需要

図表2は米本土への観光目的の旅行

者がどのエリアでリバウンドしているか探ったものです。かつての主力であった西海岸ではなく東海岸が緩やかにシェアを伸ばしていることが分かります。特に2015年はやや目立った形で伸びており、2016年も東海岸のリードが続いているのではないかと推定されます。この背景と考えられる要素のひとつが図表3に示した旅行者層の年代的・世代的な変化です。

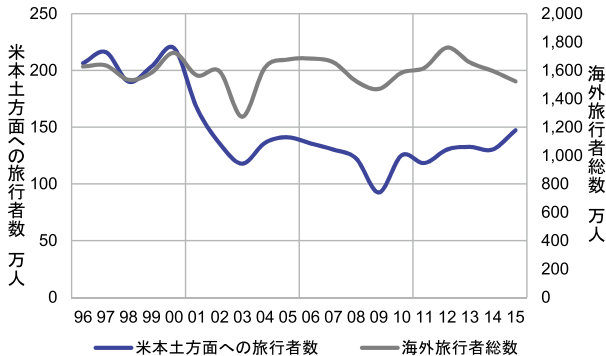
米本土への観光旅行者はかつて20歳〜34歳の若年層が中心でした。しかし現在の市場では35歳〜49歳、及び50歳以上の旅行者が多数派を占めていることが分かります。ここで注目したいのが50代以上の旅行者です。戦後から1950年代半ばまで生まれの団塊世代が北米方面への旅行者数増加に貢献したのは2005年〜10年頃までが中心であったと考えられ、この数年の米本土方面への需要押上げに貢献している主役は1950年代半ば以降から60年代生まれの新人類世代ではないかと推測しています。

ライフステージが変わりつつある新人類世代

では今なぜ東海岸なのでしょう。答えは旅行経験にあるのではないかと考え

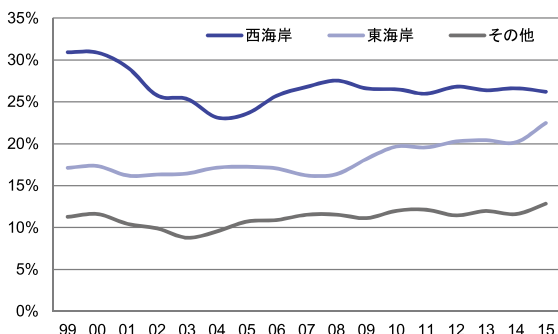
ています。新人類世代はハネムーンなどで米本土の訪問経験を持つ者が少なくありません。その多くが西海岸であったと推測されます。子育てが終わりセミリタイアもそろそろ射程に入ってきたこの世代の米国訪問経験者が改めて「東海岸を見たい」と考えているのではないかと、この冬ダイヤから始まった羽田の昼間帯における米本土方面路線が結果を出すのかどうか、大いに注目しています。

図表1 米本土方面への旅行者数の推移



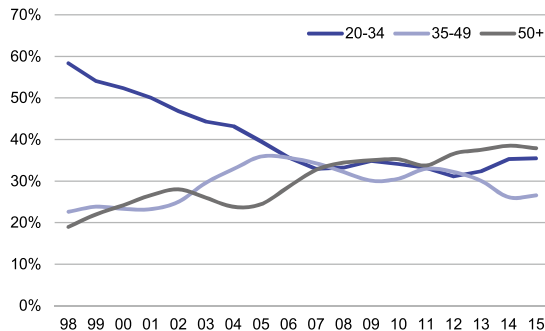
データ：法務省、米商務省、他

図表2 米本土への観光目的の旅行者数の動向



データ：JTB総合研究所推計値 (注)米本土への訪問客総数を100%として各エリアを訪問した観光旅行者の割合を推定したもの

図表3 米本土方面への観光旅行者の年代構成



データ：JTB総合研究所推計値 (注)米本土への観光目的の訪問客総数を100%として年代別の割合を推定したもの

黒須宏志
旅行市場動向のリサーチャーとして講演・寄稿などで活躍中。(株)JTB総研 執行役員・主席
研究員。1964年生まれ。